

1 自己調整学習者とは？

自分にあったやりかたで、課題を的確に解決したり、新たな知識や技能を獲得したり、新たな知見等を創造していくことのできる学習者

次の3つの知識や技能が必要

① 方略に関する知識や技能

学習や思考の計画、モニタリング、評価、コントロール(修正)

覚え方、まとめ方、要約、言い換え、関連づけ方など

② 認知的な課題に関する知識や技能

指示の理解、課題の難易度の判断、どの場面でどの方法を使うかなどの見通し等

③ 自分自身に関する知識や技能

学習者としての強みや弱み、課題に応じてと自分に合った方法の選択できる力等

2 自己調整力を育てるための課題の種類

① 固定課題 基礎学力定着、学習習慣の定着を図る

レポートなど学習のまとめや振り返りに関わる課題

ア 計算問題、漢字の書き取り、英単語の記憶、ドリル一般

イ ある課題やテーマ沿ったレポート、意見文や感想文

例 学習のまとめとして、鎌倉時代に様々な宗教が民衆にも広まった経緯や理由、それが現代にどのように影響しているかレポートにまとめてくる。

※ 必修とすることから、目的を明確にし、方法のレベルでの選択や工夫を促すようにすることで、発達段階や習熟度に対応することができる。

例 漢字の書き取り

レベル1 書き方や回数などを指定してそのとおりにやることを課す

レベル2 書き方や回数などは指定せず、その漢字を書けるようにしてやることを課す。

レベル3 その漢字の理解を深めることを目的とさせ、熟語や他の読み方、用法などを自分なりに調べ活用できることを課す。

② 選択課題 学力差や弱点補強などに応じて、個人で選択して取り組む課題

自由課題 範囲や内容などを、ゆるく設定し、各自の計画やペースで期限を決めて取り組む課題

③ 自己調整学習 主体的に課題を見出し、自律的に計画を立て、取り組む学習

3 課題の出し方の実際

① 固定課題 目的、指示や条件、やり方などを明確にして課す。

② 選択課題、自由課題 ①に加えて、次のような配慮が必要。

ア 課題の難易度、取り組み方、得られる力などの違いの説明

イ その生徒にあった課題を選択できるための指導・支援

ウ なぜ、その課題を選んだか、やってみてどうだったかという学習者自身の振り返り → 自覚・教訓的帰納

③ 自己調整学習

ア 自己理解 自己の学習状況の把握

イ 対象理解 学習対象(内容)についてどのようにとらえているか

ウ 必要感・意欲 その学習、課題解決が自分に必要であることの自覚

エ 方法選択

オ 取組のモニタリングとコントロール 過程を大切にす。

カ リフレクション 課題を取り組んでの獲得したものの意味づけ、価値付け

例 ③ 自己調整学習に向かう課題

ステップ1 定期テストの分析

設問分析 → 思考分析 → 自分の解答分析

→ 正しい考え方の確認、吟味

→ なぜ、自分は間違えたか、どういう力や知識が足りなかったか、
どういう学習をすればよかったのか

ステップ2 補充のための学習計画

ステップ3 学習の実践

ステップ4 結果の確認

ステップ5 やり方の評価

ステップ6 これからの学習の仕方についての見通し